

第 2 章 : Windows 10 エンタープライズ デスクトップの展開

演習 A : Windows アセスメント & デプロイメント キット (ADK) ツールによる参照イメージのビルド

練習 1 : カスタム Windows PE ブート メディアの構成

▶ 作業 1 : Windows PE ビルド環境をセットアップする

1. LON-CL1 で、ユーザー名「Adatum¥Administrator」、パスワード「Pa\$sw0rd」を使用して、サインインします。[スタート]、[すべてのアプリ]、[Windows Kits] の順にクリックし、[展開およびイメージング ツール環境] を右クリックして、[管理者として実行] をクリックします。
2. 管理者 : 展開およびイメージング ツール環境ウィンドウで、次のコマンドを入力し、Enter キーを押して、64 ビット アーキテクチャのディレクトリ構造を作成します。

```
Copype amd64 E:¥winpe64
```

3. タスク バーで、[エクスプローラー] アイコンをクリックします。
4. ナビゲーション ウィンドウで、[Allfiles (E:)]、[winpe64]、[media] の順に展開し、[sources] をクリックします。
5. Boot.wim ファイルのサイズをメモします。
6. エクスプローラーを閉じます。
7. タスク バーの [検索] ボックスに「PowerShell」と入力し、表示されたリストで [PowerShell] を右クリックして、[管理者として実行] をクリックします。



注 : これ以降の手順で、構文エラーを避けるために、E:¥Labfiles¥Mod02¥Mod02_DISM_Powershell.txt ファイルからコマンドをコピーして、Windows PowerShell ウィンドウに貼り付けます。

8. Boot.wim イメージをマウントするために、管理者 : Windows PowerShell ウィンドウで、次のコマンドレットを入力し、Enter キーを押します。

```
Mount-WindowsImage -ImagePath E:¥Winpe64¥Media¥Sources¥Boot.wim -Index 1 -Path E:¥Winpe64¥Mount
```

9. 次の作業のために、Windows PowerShell ウィンドウを開いたままにします。

▶ 作業 2 : ドライバーとオプション コンポーネントを Windows PE イメージに追加する

ドライバーとコンポーネントを追加する

1. Hyper-V ドライバーを Windows PE イメージに追加するために、Windows PowerShell ウィンドウで、次のコマンドレットを入力し、Enter キーを押します。

```
Add-WindowsDriver -Path E:¥winpe64¥mount -Driver E:¥labfiles¥Mod02¥HyperVx64 -Recurse -ForceUnsigned
```

2. イメージに挿入された非 Microsoft ドライバーが一覧表示されます。リストの最後に、公開名が [oem9.inf] のドライバーがあることを確認します。

3. Windows PE イメージに、次のコマンドレットを入力し、各コマンドの後で Enter キーを押します。

```
CD "C:\Program Files (x86)\Windows Kits\10\Assessment and deployment kit\Windows preInstallation Environment\amd64\WinPE_OCs"
Add-WindowsPackage -Path E:\winpe64\mount -PackagePath .\WinPE-NetFX.cab
```



注: 各コマンドレットの入力後、操作の正常な完了を確認します。また、.cab ファイルの追加には数分かかる場合があることに注意してください。

Windows PE イメージをマウント解除して保存する

1. Windows PE イメージへの変更をコミットするために、次のコマンドレットを入力し、Enter キーを押します。

```
Dismount-WindowsImage -Path E:\winpe64\mount -Save
```

2. Windows PowerShell ウィンドウを閉じます。次の作業のために、仮想マシンを稼働したままにします。

▶ 作業 3: Windows PE メディアを作成する

1. 展開およびイメージング ツール環境ウィンドウに戻り、ブートメディアの作成に使用できる Boot.wim の ISO イメージを作成するために、次のコマンドを実行し、各コマンドの後で Enter キーを押します。

```
MD E:\BootISO
MakeWinPEMedia /iso E:\Winpe64 E:\BootISO\WinPE64.iso
```

2. エクスプローラーで、E:\BootISO フォルダを参照し、WinPE64.iso ファイルが作成されたことを確認します。

結果: この練習により、カスタム Windows Preinstallation Environment (PE) ブートメディアを構成することができました。

練習 2: Windows SIM によるカスタム応答ファイルの作成

▶ 作業 1: 新しい応答ファイルを作成する

1. 23697-2B-LON-CL1 - 仮想マシン接続ウィンドウで、メニューの [メディア] をクリックし、[フロッピー ディスク ドライブ]、[ディスクの挿入] の順にクリックします。C:\Program Files\Microsoft Learning\23697-2\Drives にある reference.vfd ディスク ドライブを使用します。
2. LON-CL1 のエクスプローラーのナビゲーションウィンドウで、[PC] をクリックし、[フロッピー ディスク ドライブ (A:)] を右クリックして、[フォーマット] をクリックします。
3. フォーマット フロッピー ディスク ドライブ (A:) ウィンドウで、[開始] をクリックします。
4. フォーマット フロッピー ディスク ドライブ (A:) の警告ウィンドウで、[OK] をクリックします。
5. フォーマットが完了しましたウィンドウで、[OK] をクリックします。
6. フォーマット フロッピー ディスク ドライブ (A:) ウィンドウで、[閉じる] をクリックします。
7. エクスプローラーを閉じます。
8. [スタート]、[すべてのアプリ]、[Windows Kits] の順にクリックし、[Windows システム イメージ マネージャー] をクリックします。

9. Windows System Image Manager で、[ファイル] をクリックし、[Windows イメージの選択] をクリックします。
10. [Windows イメージの選択] ダイアログ ボックスで、[E:\Labfiles\ISO\Sources\] フォルダを参照し、[Install_Windows 10 Enterprise Evaluation.clg] をクリックし、[開く] をクリックします。
11. 応答ファイル ウィンドウで、[応答ファイルを作成または開きます] を右クリックし、[応答ファイルを開く] をクリックします。
12. [開く] ダイアログ ボックスで、[C:\Program Files (x86)\Windows Kits\10\Assessment and Deployment Kit\Deployment Tools\Samples\Unattend] フォルダを参照し、[Autounattend_x64_BIOS_sample] をクリックして、[開く] をクリックします。
13. Windows System Image Manager で、[はい] をクリックし、応答ファイルをイメージに関連付けます。
14. Windows System Image Manager で、[ファイル]、[名前を付けて保存] の順にクリックします。
15. [名前を付けて保存] ダイアログ ボックスで [PC] をクリックし、[フロッピー ディスク ドライブ (A:)] をダブルクリックし、[ファイル名] ボックスに「Autounattend」と入力して、[保存] をクリックします。

▶ 作業 2: 応答ファイルの設定を変更する

コンポーネントとパッケージを追加して構成する

1. 応答ファイル ウィンドウの [Components] ノードで、[1 windowsPE]、[amd64_Microsoft-Windows-Setup_neutral] の順に展開し、[UserData] をクリックします。
2. [FullName] ボックスに自身の名前を入力し、[Organization] ボックスに「Adatum」と入力します。
3. [UserData] を展開し、[ProductKey] を右クリックして、[削除] をクリックします。
4. Windows System Image Manager で、[はい] をクリックします。
5. Windows イメージ ウィンドウの [Components] で、[amd64_Microsoft-Windows-UnattendedJoin_10.0.10586.0_neutral] を右クリックし、[パス 4 specialize に設定を追加] をクリックします。
6. 応答ファイル ウィンドウの [4 specialize] で、[amd64_Microsoft-Windows-Shell-Setup_neutral] を選択します。
7. [ComputerName] ボックスに「Reference」と入力します。
8. [amd64_Microsoft-Windows-Shell-Setup_neutral] を展開し、[OEMInformation] コンポーネントを右クリックし、[削除]、[はい] の順にクリックします。
9. [4 specialize] で、[amd64_Microsoft-Windows-UnattendedJoin_neutral] を展開し、[Identification] を選択して、[JoinWorkgroup] ボックスに「imaging」と入力します。
10. Windows イメージ ウィンドウの [Components] で、[amd64_Microsoft-Windows-International-Core_10.0.10586.0_neutral] を右クリックし、[パス 7 oobeSystem に設定を追加] をクリックします。
11. Windows イメージ ウィンドウの [Components] で、[amd64_Microsoft-Windows-Shell-Setup_10.0.10586.0_neutral] を展開し、[OOBE] を右クリックして、[パス 7 oobeSystem に設定を追加] をクリックします。
12. Windows イメージ ウィンドウの [amd64_Microsoft-Windows-Shell-Setup_10.0.10586.0_neutral] で、[UserAccounts] を展開し、[AdministratorPassword] を右クリックして、[パス 7 oobeSystem に設定を追加] をクリックします。
13. Windows イメージ ウィンドウの [amd64_Microsoft-Windows-Shell-Setup_10.0.10586.0_neutral] で、[UserAccounts]、[LocalAccounts] の順に展開し、[LocalAccount] を右クリックして、[パス 7 oobeSystem に設定を追加] をクリックします。

14. 応答ファイル ウィンドウの [7 oobeSystem] で、[amd64_Microsoft-Windows-International-Core_neutral] をクリックします。[InputLocale]、[UILanguage] および [UserLocale] ボックスに「ja-jp」と入力します。
15. 応答ファイル ウィンドウの [7 oobeSystem] で [amd64_Microsoft-Windows-Shell-Setup_neutral] をクリックします。
16. [TimeZone] ボックスに「Tokyo Standard Time」と入力します。
17. [OOBE] をクリックし、[HideEULAPage] ボックスで、ドロップダウン リストをクリックし、[true] を選択します。
18. [UserAccounts] を展開し、[AdministratorPassword] をクリックします。[Value] ボックスを右クリックし、[空の文字列の書き込み] をクリックします。
19. [LocalAccounts] を展開し、[LocalAccount] をクリックします。[DisplayName] ボックスに自身の氏名を入力します。[Group] ボックスに「Administrators」と入力し、[Name] ボックスに自身の名前を入力します。
20. [LocalAccount[Name="<あなたの名前>"]] を展開し、[Password] をクリックします。[Value] ボックスに「Pa\$\$w0rd」と入力します。
21. Windows イメージ ウィンドウで、[Packages]、[Foundation] の順に展開し、[amd64_Microsoft-Windows-Foundation-Package_10.0.10586.0_] を右クリックして、[応答ファイルに追加] をクリックします。
22. 応答ファイル ウィンドウで、[amd64_Microsoft-Windows-Foundation-Package_10.0.10586.0_] をクリックします。
23. Microsoft-Windows-Foundation-Package のプロパティ ウィンドウで、[Microsoft-Hyper-V-All] をクリックし、ドロップダウン リストをクリックして、[Enabled] を選択します。
24. [Microsoft-Hyper-V-All] を展開し、[Microsoft-Hyper-V-Tools-All] を右クリックして、[親機能の有効] をクリックします。[Windows System Image Manager] ダイアログ ボックスで、[はい] をクリックします。
25. [Microsoft-Hyper-V-Tools-All] を展開し、[Microsoft-Hyper-V-Management-Clients] と [Microsoft-Hyper-V-Management-PowerShell] を [Enabled] にします。
26. 応答ファイル ウィンドウで、[amd64_Microsoft-Windows-International-Core-WinPE_neutral] をクリックし、[InputLocale]、[SystemLocale]、[UILanguage]、[UserLocale] ボックスに「ja-JP」と入力します。[LayeredDriver] ボックスに「6」と入力します。

応答ファイルを検証して保存する

1. Windows System Image Manager で、[ツール]、[応答ファイルの検証] の順にクリックします。



注: [設定は変更されていません。応答ファイルに保存されません。] という警告が表示される場合があります。警告を無視します。


2. Windows System Image Manager で、[ファイル]、[応答ファイルを保存] の順にクリックします。
3. 23697-2B-LON-CL1 - 仮想マシン接続ウィンドウで、[メディア]、[フロッピー ディスク]、[reference.vfd の取り出し] の順にクリックします。
4. Windows SIM を閉じます。

結果: この練習により、Windows System Image Manager を使用して、カスタム応答ファイルを作成することができました。

練習 3: 応答ファイルによる参照コンピューターのインストール

▶ 作業 1: 無人インストールを開始する

1. Hyper-V マネージャーで、[23697-2B-LON-CL5] をダブルクリックします。
2. 23697-2B-LON-CL5 - 仮想マシン接続ウィンドウで、[メディア]、[フロッピー ディスク ドライブ]、[ディスクの挿入] の順にクリックします。
3. C:\Program Files\Microsoft Learning\23697-2\Drives を参照し、[reference.vfd] ファイルを選択して、[開く] をクリックします。
4. 23697-2B-LON-CL5 - 仮想マシン接続ウィンドウで、[メディア]、[DVD ドライブ]、[ディスクの挿入] の順にクリックします。
5. C:\Program Files\Microsoft Learning\23697-2\Drives を参照し、[Win10Ent_Eval_JP.iso] ファイルを選択して、[開く] をクリックします。
6. 23697-2B-LON-CL5 - 仮想マシン接続ウィンドウで、[操作]、[起動] の順にクリックします。

 **注:** インストールに 1 時間かかる場合があります。

結果: この練習により、応答ファイルを使用して、参照コンピューターをインストールすることができました。

練習 4: Sysprep による参照コンピューターの準備

▶ 作業 1: 応答ファイルの設定が適用されたことを確認する

1. LON-CL5 で、[すぐに使い始めることができます] ページが表示されたら、[簡単設定を使う] をクリックします。
2. サインイン画面が表示されたら、ユーザー名「<あなたの名前>」、パスワード「Pa\$\$w0rd」を使用してサインインします。
3. デスクトップが表示されるまで、約 5 ～ 10 分かかります。
4. ネットワーク サイド バーが表示されたら、[はい] をクリックします。
5. タスク バーの [検索] ボックスに「Hyper-V」と入力します。検索結果には、追加した Hyper-V マネージャー機能が含まれます。
6. [スタート] を右クリックし、[システム] をクリックし、コンピューター名が [Reference] で、ワークグループが [imaging] であることを確認します。
7. タスク バーの [検索] ボックスに「コンピューターの管理」と入力し、[コンピューターの管理] をクリックします。
8. コンピューターの管理のコンソール ツリーで、[ローカル ユーザーとグループ] を展開し、[グループ] をクリックして、詳細ウィンドウで [Administrators] をダブルクリックします。自身のユーザーアカウントがローカルの Administrators グループ内にあることを確認します。Administrators のプロパティ ウィンドウで、[キャンセル] をクリックします。
9. コンピューターの管理のコンソール ツリーで、[ディスクの管理] をクリックします。[System] パーティションが 350 MB であることを確認します。
10. 開いているウィンドウをすべて閉じます。

11. 23697-2B-LON-CL5 - 仮想マシン接続ウィンドウで、[メディア]、[DVD ドライブ]、[Win10Ent_Eval_JP.iso の取り出し] の順にクリックします。
12. 手順 11 を繰り返し、[フロッピー ディスク ドライブ]、[reference.vfd の取り出し] の順にクリックします。

▶ 作業 2: Sysprep を実行する

1. LON-CL5 で、タスク バーの [検索] ボックスに「cmd」と入力します。[コマンド プロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] をクリックします。
2. ユーザー アカウント制御で、[はい] をクリックします。
3. コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力し、各行の最後に Enter キーを押します。

```
CD C:\Windows\System32\Sysprep
Sysprep
```

4. システム準備ツール 3.14 ウィンドウで、[一般化する] チェック ボックスをオンにし、[シャットダウン オプション] ドロップダウン リストで、[シャットダウン] を選択して、[OK] をクリックします。
5. Sysprep が実行され、LON-CL5 がシャットダウンされます。

結果: この練習により、システム準備ツール (Sysprep) を使用して、参照コンピューターを準備することができました。

練習 5: 参照コンピューターのキャプチャ

▶ 作業 1: Windows PE を使用して参照コンピューターを起動する

1. Hyper-V マネージャーで、[23697-2B-LON-CL5] をダブルクリックします。
2. 23697-2B-LON-CL5 - 仮想マシン接続ウィンドウで、[メディア]、[DVD ドライブ]、[ディスクの挿入] の順にクリックします。
3. C:\Program Files\Microsoft Learning\23697-2\Drives を参照し、[WinPE64_JP.iso] ファイルを選択して、[開く] をクリックします。
4. 23697-2B-LON-CL5 を起動します。[Press any key to boot from DVD] が表示されたら、任意のキーを押して、DVD から起動します。
5. LON-CL1 で エクスプローラーを開き、Allfiles (E:) を参照します。
6. 詳細ウィンドウの何も表示されていない場所を右クリックし、[新規作成]、[フォルダー] の順にクリックします。[新しいフォルダー] ボックスに「Images」と入力します。
7. [Images] を右クリックし、[共有]、[特定のユーザー] の順にクリックします。
8. ネットワーク上の共有相手となるユーザーを選択してくださいウィンドウで、[共有]、[終了] の順にクリックします。

▶ 作業 2: 展開イメージのサービスと管理 (DISM) を使用して参照コンピューターをキャプチャする

1. LON-CL5 に戻ります。Windows PE による起動が完了したら、コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
Net Use G: \\LON-CL1\images /User:Adatum\Administrator
```

2. メッセージが表示されたら、パスワード「Pa\$\$w0rd」を入力します。コマンドが正常に完了したことを確認します。



注: 前に説明したとおり、ハードディスクのドライブ文字は新しい文字に再マッピングされる場合があります。そのため、常にドライブを確認し、正しいものをキャプチャしていることを確認する必要があります。

3. コマンド プロンプトで「D:」と入力し、Enter キーを押します。



注: Windows PE では、既定の回復パーティションが C となり、オペレーティング システムは D となります。完了後、オペレーティング システムは C ドライブで起動します。

4. 「Dir」と入力し、Enter キーを押します。次のような Windows 10 オペレーティング システムのディレクトリ構造が返されます。

- PerfLogs
- Program Files
- Program Files (x86)
- Users
- Windows

5. コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
DISM /Capture-Image /Imagefile:G:\Win10.wim /CaptureDir:D:\ /Name:"Adatum Windows 10"
```



注: イメージのキャプチャには約 1 時間かかります。最初にカーソルはプロンプト上にあります。次にイメージの保存が始まります。この時点で、仮想マシンをシャットダウンすることができます。キャプチャを完了する必要はありません。

6. 23697-2B-LON-CL5 で、[操作]、[元に戻す] をクリックします。
7. [仮想マシンを戻す] ダイアログ ボックスで、[戻す] をクリックします。

結果: この練習により、参照コンピューターのイメージをキャプチャすることができました。

演習 B : MDT による Windows 10 デスクトップの展開

練習 1 : MDT 展開共有の作成と構成

▶ 作業 1 : 展開共有を作成する

1. LON-CL1 のタスク バーで、[エクスプローラー] アイコンをクリックします。
2. エクスプローラーで、アドレス バーに、「¥¥LON-DC1¥E\$¥Labfiles¥Mod02¥MDT2013」と入力し、[MicrosoftDeploymentToolKit2013_x64] をダブルクリックします。
3. Microsoft Deployment Toolkit Update 1 Setup Wizard で、[Next] をクリックします。
4. [End-User License Agreement] ページで、[I accept the terms in the License Agreement] チェック ボックスをオンにし、[Next] をクリックします。
5. [Custom Setup] ページで、[Next] をクリックします。
6. [Customer Experience Improvement Program] ページで、[I don't want to join the program at this time] が選択されていることを確認し、[Next] をクリックします。
7. [Ready to Install] ページで、[Install] をクリックします。
8. インストールが完了したら、[Finish] をクリックし、開いているウィンドウをすべて閉じます。
9. LON-CL1 を再起動し、ユーザー名「Adatum¥Administrator」、パスワード「Pa\$\$w0rd」を使用してサインインします。
10. 23697-2B-LON-CL1 - 仮想マシン接続ウィンドウで、[メディア]、[DVD ドライブ]、[ディスクの挿入] の順にクリックします。
11. [開く] ダイアログ ボックスで、C:¥Program Files¥Microsoft Learning¥23697-2¥Drives を参照し、[Win10Ent_Eval_JP.iso] をクリックして、[開く] をクリックします。
12. スタート メニューで、[すべてのアプリ] をクリックし、[Microsoft Deployment Toolkit] フォルダを展開して、[Deployment Workbench] をクリックします。
13. Deployment Workbench で、[Deployment Shares] を右クリックし、[New Deployment Share] をクリックします。
14. New Deployment Share Wizard の [Path] ページで、[Next] をクリックします。
15. [Share] ページで、[Next] をクリックします。
16. [Descriptive Name] ページで、[Next] をクリックします。
17. [Options] ページで、内容を確認し、[Next] をクリックします。
18. [Summary] ページで、[Next] をクリックします。
19. [Confirmation] ページで、[Finish] をクリックします。

▶ 作業 2 : 展開共有にオペレーティング システム ファイルを追加する

1. LON-CL1 の Deployment Workbench で、[Deployment Shares]、[MDT Deployment Share] の順に展開します。[Operating Systems] フォルダを右クリックし、[Import Operating System] をクリックします。
2. Import Operating System Wizard の [OS Type] ページで、[Custom image file] を選択し、[Next] をクリックします。
3. [Image] ページで、[Source file] ボックスに「E:¥Labfiles¥ISO¥Sources¥Install.wim」と入力し、[Next] をクリックします。

4. [Setup] ページで、[Copy Windows 7, Windows Server 2008 R2, or later setup files from the specified path] を選択し、[Setup source directory] ボックスに「D:¥」と入力して、[Next] をクリックします。
5. [Destination] ページで、[Destination directory name] ボックスに「AdatumWin10」と入力し、[Next] をクリックします。
6. [Summary] ページで、[Next] をクリックします。
7. [Confirmation] ページで、[Finish] をクリックします。

▶ 作業3: 展開共有にデバイス ドライバーを追加する

Out-of-Box Drivers フォルダーにサブフォルダーを作成する

1. LON-CL1 の Deployment Workbench で、[Out-of-Box Drivers] ノードを右クリックし、[New Folder] をクリックします。
2. New Folder Wizard の [General Settings] ページで、[Folder name] ボックスに「Intellipoint Drivers」と入力し、[Next] をクリックします。
3. [Summary] ページで、[Next] をクリックします。
4. [Confirmation] ページで、[Finish] をクリックします。

展開共有にデバイス ドライバーをインポートする

1. LON-CL1 の Deployment Workbench で、[Out-of-Box Drivers] を展開し、[Intellipoint Drivers] フォルダーを右クリックし、[Import Drivers] をクリックします。
2. Import Driver Wizard の [Specify Directory] ページで、[Driver source directory] ボックスに「¥¥LON-DC1¥E\$¥Labfiles¥Mod02¥Drivers¥point64」と入力し、[Next] をクリックします。
3. [Summary] ページで、[Next] をクリックします。
4. [Confirmation] ページで、[Finish] をクリックします。

▶ 作業4: CustomSettings.ini ファイルを使用して詳細設定を構成する

1. LON-CL1 で、タスク バーの [検索] ボックスに「メモ帳」と入力し、Enter キーを押します。
2. メモ帳で、[ファイル] メニューの [開く] をクリックします。
3. [開く] ダイアログ ボックスで、E:¥Labfiles¥Mod02¥ を参照し、[CustomSettingsini] を選択して、[開く] をクリックします。
4. これは「MDT 構成ファイルの概要」というトピックで採り上げたテキストであることに注意してください。CustomSettingsini ファイルと、エントリが果たす役割を確認します。
5. Ctrl + A キーを押して、ハイライトされたテキストを右クリックし、[コピー] をクリックします。
6. Deployment Workbench で、[MDT Deployment Share] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
7. [Rules] タブをクリックします。詳細ウィンドウ内のすべてのテキストをハイライトし、ハイライトされたテキストを右クリックして、[貼り付け] を選択します。これにより、CustomSettings.INI.txt ドキュメントからテキストを追加します。
8. MDT Deployment Share (C:¥DeploymentShare) のプロパティ ウィンドウで、[OK] をクリックします。

結果: この練習により、Microsoft Deployment Toolkit (MDT) の展開共有を作成し、構成することができました。

練習 2 : タスク シーケンスの作成

▶ 作業 1 : タスク シーケンスを作成する

標準クライアント タスク シーケンスを作成する

1. LON-CL1 の Deployment Workbench で、MDT Deployment Share の [Task Sequences] を右クリックし、[New Task Sequence] をクリックします。
2. New Task Sequence Wizard の [General Settings] ページで、[Task sequence ID] ボックスに「Adatum-001」と入力します。
3. [Task sequence name] ボックスに「Deploy Adatum Win10」と入力し、[Next] をクリックします。
4. [Select Template] ページで、タスク シーケンス テンプレートのドロップダウン リストで [Standard Client Task Sequence] (既定) が選択されていることを確認し、[Next] をクリックします。
5. [Select OS] ページで、[Windows 10 Enterprise in AdatumWin10 install.wim] をクリックし、[Next] をクリックします。
6. [Specify Product Key] ページで、[Do not specify a product key at this time] が選択されていることを確認し、[Next] をクリックします。
7. [OS Settings] ページで、[Full Name] ボックスに「Administrator」と入力します。[Organization] ボックスに「Adatum」と入力し、[Next] をクリックします。
8. [Admin Password] ページで、[Administrator Password] と [Please confirm Administrator Password] ボックスに「Pa\$\$w0rd」と入力して、[Next] をクリックします。
9. [Summary] ページで、[Next] をクリックします。
10. [Confirmation] ページで、[Finish] をクリックします。

標準クライアント タスク シーケンスを編集する

1. ナビゲーション ウィンドウで、[Task Sequences] ノードをクリックします。
2. [Deploy Adatum Win10] タスク シーケンスを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
3. [Task Sequence] タブをクリックし、[Preinstall] を展開し、[Inject Drivers] をクリックします。[Choose a selection profile] ドロップダウン リストで、[Nothing] を選択します。
4. [OK] をクリックし、Deploy Adatum Win10 Properties ウィンドウを閉じます。

▶ 作業 2 : 展開共有を更新する

1. [MDT Deployment Share] を右クリックし、[Update Deployment Share] をクリックします。
2. New Deployment Share Wizard の [Options] ページで、[Next] をクリックします。
3. [Summary] ページで、[Next] をクリックします。
4. [Progress] ページで、表示されるイベントを確認します。このタスクの実行には 15 分ほどかかる可能性があります。
5. [Confirmation] ページで、[Finish] をクリックします。

結果 : この練習により、参照コンピューターを展開し、キャプチャするタスク シーケンスを作成することができました。

練習 3: MDT による Windows 10 イメージの展開

▶ 作業 1: 参照コンピューターを起動して Windows 展開ウィザードを完了する

1. ホスト コンピューターで [Hyper-V マネージャー] を開き、23697-2B-LON-CL5 に接続します。
2. 23697-2B-LON-CL5 の設定ウィンドウで、[メディア]、[DVD ドライブ]、[ディスクの挿入] の順にクリックします。
3. C:\Program Files\Microsoft Learning\23697-2\Drives フォルダを参照し、[LiteTouchPE_x64.iso] を選択して、[開く] をクリックします。
4. 23697-2B-LON-CL5 を起動します。CD または DVD からブートする場合、[Press any key to boot from CD or DVD] と表示されたら、キーボードで任意のキーを押します。
5. MDT の [Welcome] ページで、[Run the Deployment Wizard to install a new Operating System] をクリックします。
6. [User Credentials] ダイアログ ボックスで、[User Name] ボックスに「Administrator」、[Password] ボックスに「Pa\$\$w0rd」、[Domain] ボックスに「Adatum」と入力し、[OK] をクリックします。
7. Windows Deployment Wizard の [Task Sequence] ページで、[Deploy Adatum Win10] を選択し、[Next] をクリックします。
8. [Computer Details] ページで、[Computer name] ボックスに「LON-CL7」と入力し、[Next] をクリックします。
9. [Move Data and Settings] ページで、[Next] をクリックします。
10. [User Data (Restore)] ページで、[Next] をクリックします。
11. [Locale and Time] ページで、[Next] をクリックします。
12. [Capture Image] ページで、[Next] をクリックします。
13. [Ready] ページで、[Details] をクリックし、設定を確認して、[Begin] をクリックします。



注: この手順には、約 1 ～ 2 時間かかります。

結果: この練習により、MDT を使用して、Windows 10 イメージを展開することができました。

演習 C : Windows ICD による Windows 10 のインストールの管理

練習 1 : Windows ICD のプロビジョニングパッケージの作成と構成

▶ 作業 1 : プロビジョニングパッケージを作成する

1. LON-CL1 で、[スタート] をクリックし、[すべてのアプリ] をクリックします。[Windows Kits]、[Windows イメージングおよび構成デザイナー] の順にクリックします。
2. Windows ICD が起動したら、[新しいプロビジョニング パッケージ] アイコンをクリックします。新しいプロジェクト ウィザードが開始されます。
3. [プロジェクトの詳細の入力] ページで、[名前] ボックスに「LabProvPackage」、[説明] ボックスに「Lab C Provisioning Package」と入力し、[次へ] をクリックします。
4. [表示および構成する設定の選択] ページで、[Common to all Windows editions] (すべての Windows エディションに共通) を選択し、[次へ] をクリックします。
5. [プロビジョニング パッケージのインポート] ページで、ボックスにパッケージ名を入力し、[参照] をクリックして、インポートするパッケージを検索するオプションを確認します。新規プロジェクト ウィザードを初めて実行するため、インポートできる過去のパッケージは存在しません。[完了] をクリックします。

▶ 作業 2 : プロビジョニングパッケージをビルドする

1. LabProvPackage ウィンドウが開いたら、[利用可能なカスタマイズ] リストの [表示] ドロップダウン リストで、[すべての設定] が選択されていることを確認します。
2. [実行時の設定] を展開し、[ConnectivityProfiles] を展開し、[WiFiSense] を選択します。
3. 詳細ウィンドウで、ConnectivityProfiles/WifiSense/FirstBoot セクションの [WiFiSenseAllowed] ドロップダウン リストで、[Disabled] を選択します。
4. 実行時の設定のコンソール ツリーで、[Policies] を展開し、[Defender] を選択します。Defender ノードのサブ項目として、[ExcludedPaths] を選択します。詳細ウィンドウで、[ExcludedPaths] ボックスに「E:\Labfiles」と入力します。
5. [Defender] ノードを折りたたみ、その下の [WiFi] ノードを展開します。最初のサブ項目の [AllowAutoConnectToWiFiSenseHotspots] を選択し、詳細ウィンドウで [NOT CONFIGURED] ドロップダウン リストを選択して、[No] に変更します。
6. Windows ICD の [エクスポート] ドロップダウン リストで、[プロビジョニング パッケージ] をクリックします。
7. ビルド ウィンドウの [所有者] の [OEM] ドロップダウン リストで、値を [IT 管理者] に変更し、[次へ] をクリックします。
8. [プロビジョニング パッケージのセキュリティ情報の選択] ページで、[次へ] をクリックします。
9. [プロビジョニング パッケージの保存先の選択] ページで、[次へ] をクリックします。
10. [プロビジョニング パッケージのビルド] ページで、[ビルド]、[完了] の順にクリックします。

▶ 作業3: プロビジョニング パッケージをインストールする

1. Windows ICD のメニュー バーで、[スタート ページ] をクリックします。
2. [Create] 領域で、[新しい Windows イメージのカスタマイズ] タイルをクリックします。
3. 新しいプロジェクト ウィザードで、[名前] ボックスに「LabWinImageCust」、[説明] ボックスに「Lab C Windows image customization」と入力し、[次へ] をクリックします。
4. [イメージ ソース形式の選択] ページで、[Windows イメージは、Windows イメージ (WIM) ファイルに基づいています] を選択し、[次へ] をクリックします。
5. [イメージの選択] ページで、[参照] をクリックします。開くウィンドウのコンソール ツリーで、[Allfiles (E:¥)] を選択し、[Labfiles¥ISO¥Sources] を展開します。詳細ウィンドウで [install.wim] を選択して、[開く] をクリックし、[次へ] をクリックします。
6. [プロビジョニング パッケージのインポート (オプション)] ページで、[参照] をクリックします。開くウィンドウの詳細ウィンドウで、[LabProvPackage] をダブルクリックし、[LabProvPackage.ppkg] を選択して、[開く]、[完了] の順にクリックします。
7. インポートに成功しましたウィンドウで、[OK] をクリックします。
8. [LabWinImageCust] プロジェクト ページで、メニュー バーの [作成] ドロップダウン リストをクリックし、[クリーン インストール メディア] を選択します。
9. [ビルドするイメージ形式の選択] ページで、[WIM] をクリックし、[次へ] をクリックします。
10. [展開メディア] ページで、[フォルダーに保存] を選択し、[次へ] をクリックします。
11. [ファイルの保存先の選択] ページで、[参照] をクリックします。フォルダーの参照ウィンドウで、[E:¥Labfiles] を展開し、[新しいフォルダーの作成] をクリックし、フォルダーに「WICD1」という名前を付けて、[OK]、[次へ] の順にクリックします。
12. [Windows イメージのビルド] ページで [ビルド] をクリックします。
13. [完了] ページが表示されたら、[完了] をクリックします。
14. タスク バーで、[エクスプローラー] アイコンをクリックします。
15. Allfiles (E:) を参照し、[Labfiles] を展開し、[WICD1] フォルダーをダブルクリックします。



注: このフォルダーには、通常は ISO イメージ ファイルの内容となるものが含まれます。フォルダーとその内容を ISO イメージ ファイルとして作成し、それを書き込み可能な DVD に書き込むか、内容を USB フラッシュ ドライブにコピーするためには、ISO イメージ作成ツールが必要です。ただし、この最後の手順については、このコースでは説明しません。

16. Windows ICD ウィンドウを閉じます。[プロジェクトを保存しますか?] ダイアログ ボックスで、[保存しない] をクリックします。
17. 開いているウィンドウをすべて閉じ、サインアウトします。

結果: この練習により、Windows イメージングおよび構成デザイナー (ICD) のプロビジョニング パッケージを作成し、構成することができました。

▶ 次の章の準備をする

演習が完了したら、仮想マシンを初期状態に戻します。

1. ホスト コンピューターで、Hyper-V マネージャーを起動します。
2. [仮想マシン] リストで、[23697-2B-LON-DC1] を右クリックし、[戻す] をクリックします。
3. [仮想マシンを戻す] ダイアログ ボックスで、[戻す] をクリックします。
4. 23697-2B-LON-CL1 と 23697-2B-LON-CL5 に対して、手順 2 ～ 3 を繰り返します。

